
東北大学陸上競技部

OB・OG 通信

2017年 No.2 (2017.6)

- ・ 中村真璃子(3)が学連春季競技会にて女子走高跳で1m56、部記録を更新!!
- ・ 白井花(3)が宮城県春季陸上競技大会にて女子5000mWで26' 40" 14、部記録を更新!!
- ・ 第70回東北学生陸上競技対校選手権大会
男子100m 宮崎幸辰(M1)、男子5000m 酒井洋輔(3)、男子10000m 松浦崇之(2)、
男子3000mSC 立野佑太(2)、男子円盤投 楠哲也(3)、女子走高跳 中村真璃子(3)、の
6名が全日本インカレ出場権を獲得!!
女子800mで上條麻奈(2)が2' 16" 62、部記録更新!!
女子10000mWで白井花(3)が54' 09" 34、部記録更新!!
女子4×400mRで4' 03" 37、部記録更新!!

-
- | | |
|---------------------------|----------|
| ・ 東北学連春季競技会 | 2 ページ |
| ・ 宮城県春季陸上競技大会 | 2～3 ページ |
| ・ 平成29年度第一回部員総会 | 3 ページ |
| ・ 第51回織田幹雄記念国際陸上競技大会 | 3 ページ |
| ・ 第70回東北学生陸上競技対抗選手権大会 | 4～15 ページ |
| ・ 第70回東北学生陸上競技対抗選手権大会決勝記録 | 16 ページ |
| ・ 自己ベスト更新者 | 17 ページ |
| ・ 今後の予定 | 17 ページ |
| ・ 編集後記 | 17 ページ |

緑樹の候、会員の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。今号では、第70回東北学生陸上競技対抗選手権大会の結果を中心にお伝えします。

◎東北学連春季競技会(4/8～4/9)

…弘進ゴムアスリートパーク仙台

シーズン初戦のこの競技会には多くの選手が出場しました。中村(3)の女子走高跳部記録更新をはじめ、各選手健闘しました。出場選手が多かった種目を中心に結果の一部をお伝えします。

◆男子 100m

1組(+1.0)	宮崎幸辰(M1)	2着	10"84
3組(+2.5)	藤井佳祐(4)	1着	10"80
5組(-1.4)	猿田康陽(M2)	1着	11"58
5組(-1.4)	白鳥海知(3)	2着	11"60
5組(-1.4)	大衡竜太(4)	4着	11"65
6組(-1.3)	藤井大輝(3)	5着	11"76
8組(-1.6)	平井景梧(2)	1着	11"45
8組(-1.6)	堀越涼(3)	7着	11"85
9組(+0.6)	古川楓(3)	5着	11"66
10組(+1.6)	森野太介(4)	3着	11"51
12組(-1.1)	津嶋優希(4)	7着	12"23
14組(-0.8)	竹原大(M2)	1着	11"68
15組(-0.9)	山田将斗(2)	1着	11"87
22組(-1.7)	倉田真樹(2)	2着	12"01

◆男子 200m

3組(+1.7)	白鳥海知(3)	4着	23"09
6組(+1.6)	大衡竜太(4)	2着	22"83
7組(+0.8)	藤井大輝(3)	1着	23"42
8組(+1.0)	森野太介(4)	4着	23"67
11組(+1.7)	竹原大(M2)	2着	24"02
14組(+2.8)	山田将斗(2)	1着	23"28
17組(-1.8)	山田球児(2)	1着	24"69

◆男子 800m

1組	川口航汰(3)	1着	1'57"51
〃	佐藤宏夢(3)	7着	1'59"99
2組	松田将大(3)	1着	1'58"59
3組	宇梶和希(2)	3着	2'03"52
〃	渡邊俊(4)	6着	2'06"93
7組	千葉智史(4)	3着	2'08"04
8組	高橋慧伍(M2)	5着	2'09"22

◆男子 5000m

1組	松浦崇之(2)	3着	15'03"17
	酒井洋輔(3)	4着	15'11"50
	笠間淳平(3)	8着	15'31"59
	立野佑太(2)	19着	15'54"39
	本田雄生(M1)	20着	15'55"42
2組	嶋田拓郎(2)	5着	15'51"15
	須永亘(3)	8着	16'05"72
	脇田陽平(2)	10着	16'07"96
	関俊樹(4)	15着	16'20"05
	熊谷駿(M1)	23着	16'53"56
	藤原啓(4)	24着	17'16"50
	上條広裕希(3)	25着	17'39"29
3組	吉田知将(2)	5着	17'13"56
4組	岡田圭太(3)	15着	17'14"37

◆男子 10000m

1組	松浦崇之(2)	1着	31'21"04
	高橋佳希(M2)	2着	31'37"97
	本田雄生(M1)	5着	32'49"52
	嶋田拓郎(2)	7着	33'22"72
	早坂謙児(M1)	8着	33'28"31
	三浦大樹(2)	15着	34'50"31
	熊谷駿(M1)	16着	34'50"35
	岡田圭太(3)	17着	35'27"95
	上條広裕希(3)	19着	35'51"24

◆男子 3000mSC

1組	南雲信之介(6)	6着	9'53"77
	堀拓磨(2)	9着	10'09"28
	熊谷駿(M1)	13着	10'27"57
2組	立野佑太(2)	1着	9'54"48
	藤原啓(4)	8着	10'38"42
	吾妻祐介(4)	11着	11'02"87

◎宮城県春季陸上競技大会(4/22～4/23)

…ひとめぼれスタジアム(利府)

この大会は宮城県陸協に登録している選手しか出場できないため出場者は限られていましたが、白井(3)の女子 5000mW 部記録更新をはじめ各選手健闘が見られました。東北大

学からの入賞者を紹介します。

◆女子 5000mW

白井花(3) 4位 26'40"14 部記録!

◆男子 4×100mR

白鳥(3)-大衡(4)-山田(将)(2)-藤井(大)(3) 3位 42"85

◎平成 29 年度第一回部員総会(4/28)

…片平さくらホール

4月28日、片平さくらホールで平成29年度第一回部員総会が行われました。

佐藤会長、彦坂副会長、吉田監督から挨拶がありました。

平成28年度活動予定の報告などの後、新入部員の紹介が行われました。最後に、出席してくださった先輩方より一言ずついただきました。

◎第 51 回織田幹雄記念国際陸上競技大会(4/29)

…広島広域公園陸上競技場(広島)

参加標準記録を満たした選手のみが出場できる大会に、宮崎(M1)が男子100mに出場しました。結果と感想を紹介します。

男子 100m 予選 3組 8着 宮崎幸辰(M1) 10"85(-0.3)

4月29日に第51回織田幹雄記念国際陸上競技大会の100mに出場しました。結果は10"85で組8位でした。

2年前は200mで出場した舞台にまた挑戦することができて、嬉しかったです。結果は客観的にみれば悪いものとなりました。原因としては、卒論執筆による冬期練習不足や直前のインフルエンザによる調整不足、走りのずれが挙げられると考えられています。修正はしますが、おそらく6月まではあまり調子はあがらないでしょう。というのも、春は苦手で、これまで調子がいい時でも11秒前後でしか走れていませんでした。なるほど、それを考えると、今シーズンはなかなかの高水準なので、逆に調子がいい可能性がありますね。そして、去年は11"2から10"3まで上がったので、私にとって春のシーズンは何とも思いません。気長に、じっくり攻めていきましょう。

少し前に、フランツ・カフカの審判をやっと拝読しました。設定が城よりもリアルなので、より想像しやすい作品かなと思います。さながら、BLACK LAGOON とヨルムンガンド、ARIA と働きマンといった感じですかね。さて私は、好きな作家を3人挙げるとしたらと聞かれたら、第一にカフカと答えるほど、カフカが好きです。その理由の一つ目は、主人公の不条理さと私の日常で感じる不条理さは程度の違いはありますが、不条理の方向性が同じようなこと、二つ目は何か不条理なことが身に起こっても、自分はまだマシと気持ち切り替えられる精神安定のツールとして見ていることだと思います。2年前も悪い結果だったことから、この大会とは相性が悪い大会なのでしょう。ですから、私の役目は東北大学でもグランプリレースに出場できるということを証明し、グランプリレースでも入賞以上してしまうような次の世代に繋げることです。しかし、諦めた訳ではありません。再度、あの舞台に戻り、走ります。競技場にいつまでも着かないとか、無実の罪でDQとかない限り、私は挑戦を続けます。

◎第 70 回東北学生陸上競技対抗選手権大会(5/13～5/15) ・・ひとめぼれスタジアム(利府)

対校結果は、男子総合 3 位、トラック 2 位、フィールド 6 位、女子総合 8 位、トラック 6 位、フィールド 6 位でした。全日本インカレ出場者が 6 名輩出された他、3 種目で部記録が更新されるなど、各選手健闘しました。各選手の結果とその様子を紹介します。

男子 100m 予選

3 組 4 着 白鳥海知(3) 11" 51(-0.5)

静止していない状態でセットのコールがかかったのは不運であった。前半の加速期がしっかり力を伝えられていないように思えた。逆に後半は伸びたが、よりコンパクトな動きを身につけることができれば更に改善の余地がある。

4 組 1 着 藤井佳祐(4) 11" 25(-2.4)

スタートの反応が悪くスタートで周りに置いていかれていた。しかし、得意の後半でしっかり伸びることができ、1 着でゴール。

5 組 1 着 宮崎幸辰(M1) 10" 73(+0.1)

スタートこそ少し遅れたが、中盤からの加速で他をぐっと引き離す。後半は接地の感覚を確かめるように伸び伸びと走り、1 着でゴール。

男子 100m 準決勝

1 組 7 着 白鳥海知(3) 11" 45(-1.2)

警告をもらっていたことが影響してか、スタートへの反応が鈍かった。予選同様、前半の接地、及び後半の遊んでいる後ろ足をいかにコンパクトにしてピッチに繋げるかが課題だ。

2 組 1 着 宮崎幸辰(M1) 10" 85(+0.9)

予選よりスタートのキレが増し、前半で大きくリードする。後半は流す余裕も見られ、1 着でゴール。

3 組 2 着 藤井佳祐(4) 10" 88(-0.4)

予選と違いしっかりスタートが出来ており、周りに置いていかれていなかった。しかし、スタートが出来た分後半でいつもの加速が見られなかった。これは、スタートでエネルギーを使った分後半に使いなかつ

たと考えられる。最初はトップであったが最後に負け 2 着でゴール。

男子 100m 決勝

1 着 宮崎幸辰(M1) 10"62(+0.5)

スタートから隣の仙台大の選手との争いになり、中盤では少しリードを許すが、後半粘り最後の最後でかわしてゴール。雪辱を果たす初優勝！

4 着 藤井佳祐(4) 10"85(+0.5)

準決勝同様スタートがうまくきまりトップ選手に付いていくことが出来ていた。しかし、他種目出ている疲労のためか後半が全く伸びておらずまた、最後の 10m で手足がバラバラになっておりしっかり地面に力が伝わっておらず走れていないように感じた。結果 4 着でゴール。

女子 100m 予選

1 組 5 着 吉村梢(4) 13"42(-1.7)

スタートの反応が悪く、上体も起きあがるのが早かったため前半で出遅れてしまった。後半は隣のレーンの選手に抜かれてから走りが固くなり差をつけられてしまい、5 着でゴール。決勝進出にはならなかった。

2 組 7 着 佐々木千歳(3) 13"54(-2.6)

スタートの反応が悪く、遅れをとってしまった。身体が早くに起き上がってしまい、公判スピードに乗れず、追い上げることができなかった。そのまま 7 位でゴールした。

男子 200m 予選

1 組 3 着 水戸部慶彦(4) 22"41(-0.4)

前日の 400m での失敗からコーナーワークに気を付け、冬季に磨いてきた加速と持久力がうまく噛み合い、最後までスピードを落とさず走り切り 3 着でゴール。

2 組 4 着 白鳥海知(3) 22"60(+0.4)

前半に力を込め過ぎずのびのびと走っていた為、直線に入る際の2次加速をスムーズにすることができ、それがPBに繋がった。前半の大きな走りは持ち味であるが、それにピッチを両立する、もしくは後半にその分より伸びることができればより良い。

4組3着 大衡竜太(4) 22"87(+0.7)

前半からしっかりと加速しコーナーに入ることができた。直線に入ってからスピードを落とすことはなく、最後まで辛そうではあったが粘ることができ3着で準決勝進出を決めた。

男子 200m 準決勝

1組8着 大衡竜太(4) 23"22(-1.2)

前日の予選での走りを踏まえ、更に良いタイムを目指し前半から飛ばす。しかしコーナーを抜けてからうまくスピードに乗れずどんどん前との距離を離されてしまい8着に終わってしまった。

2組6着 白鳥海知(3) 22"73(+0.2)

9レーンの選手に無理してでもついてゆくべきであった。また、前半に力を入れ過ぎ後半に出し切る走り方であるが、それにしてもまだまだ後半の伸びが小さいのが勿体無い。

3組4着 水戸部慶彦(4) 22"61(-0.5)

前日の予選の反省から前半から飛ばすが、コーナーが弱く先行を許してしまいそのまま4着でゴール。コーナーの弱さへの対策は専門でもある400mにもつながるため徹底して行っていきたい。

女子 200m 予選

1組6着 吉村梢(4) 27"17(+0.8)

スタートから走りが小さく、内側の選手に抜かれ、直線に入った時点で他の選手にかなり遅れてしまった。直線では少し走りが大きくなり前の選手との差を詰めたが、前半での遅れが大きくそのまま6着でゴール。決勝進出にはならなかった。

3組4着 佐貫有彩(2) 26"00(-0.1)

スタートで出遅れる。コーナー付近で何とか内側の選手についていくも、ホームストレートに入った段階で全体の4番目。そのまま前の選手との差は縮まらず、4着でゴール。

男子 400m 予選

1組7着 竹原大(M1) 54"09

勢いよくスタートしテンポよく100を通過。そこからしばらくしてだんだんと動きが強ばってくる。250地点では動きがバラバラになり300mを6番手で通過。ラスト100mも疲れを隠せないまま1人に抜かれ7着でゴール。

3組6着 岩波発彦(3) 53"88

前半はテンポの良い走りであったが、150m付近で内側の選手に抜かれてしまう。200mを過ぎたあたりから急に動きが硬くなり、ストライドが小さくなる。ホームストレートに入ってもピッチは上がり、前との差は縮まらないまま6着でゴール。

5組2着 水戸部慶彦(4) 50"71

前半200mの入りは冬場の練習でトップスピードが上がったことにより、しっかりと入れたように思えた。200mはトップで通過する。しかし200~300mの走り方、冬季の間取り組んできたことが本番でできず減速につながり、岩手大学の選手にかわされてしまう。最後まで粘るが差は縮まらずそのまま2着でゴール。総じて課題はあるものの去年からの改善点も見られた良いレースであったと思う。

女子 400m 予選

1組5着 上條麻奈(2) 1'01"39

スタートから遅れをとった。そのまま周りの選手に大きく離され、差を縮められず5着でゴールした。

3組1着 佐貫有彩(2) 1'00"29

バックストレートで隣の選手に並ばれるも、200mを通過してから他の選手を抜き先頭になる。そのまま1着でゴール。

女子 400m 決勝

2 着 佐貫有彩(2) 1'00"53

バックストレートで内側の選手に追いつかれ並ばれる。コーナーで抜かされるも、ホームストレートに入る際に加速し、全体の2番目につける。ホームで外レーンの選手が詰めてくるが何とか逃げ切り、2位でゴール。

男子 800m 予選

1 組 4 着 荒田啓輔(3) 2'01"88

ゆったりとしたスタートから、集団の後方につき、そのまま400mを62"で通過する。その後4番手まで上がるが、600m手前での集団のペースアップに出遅れ、カーブの外から追いかける展開に。それでもラスト100mでなんとか4番手を確保し、準決勝に進出した。

2 組 2 着 川口航汰(3) 2'01"24

飛び出した秋田大の選手に無理せず付き、そのまま2番手で400mを58"で通過。その後先頭に立つと、先頭を譲らず残り100mに入る。最後は流して、2着で準決勝に進出した。

5 組 4 着 松田将大(3) 2'02"16

1周目は落ち着いて入り、集団の中ほどで400mを61"で通過。バックストレート付近から徐々に集団のペースが上がる中で外側から回り、残り150mでペースを上げ先頭に立つ。その後後続にかわされるが、4番手を確保して準決勝に進出した。

男子 800m 準決勝

1 組 3 着 荒田啓輔(3) 1'58"34

スタートから出て2番手を確保しようとするが、カーブの直前で割り込まれ4番手で200mを通過。200mは28"台。そのままの隊列でペースが落ち、400mは59"で通過。その後500mすぎで一気にペースが上がったところで対応が遅れ、大外を回って抜きにかかりながら、7番手で600mを89"弱で通過。その後カーブで3番手まで上がるも

上位2名のペースには届かず、3着でゴールした。

2 組 2 着 川口航汰(3) 1'57"17

最初の位置取りでは無理をせず、5番手で200mを28"中盤で通過。その後ホームストレートでポジションを3番手まで上げ、400mを59"で通過。バックストレートで先頭を窺うも、先頭に立てず2番手で残り100mに差し掛かり、上位3人での激しいスプリント勝負となる。固くなりながらもなんとか2着に入り、決勝へ進出した。

3 組 4 着 松田将大(3) 1'59"16

外からのスタートながら位置取りに失敗し、5番手の大外で200mを29"で通過。そのまま2レーンを走り、400m通過は60"ほど。500mすぎからペースをあげようとストライドを広げるが思ったようにスピードが上がらず、600mを4番手で通過。ラスト100で1人かわすが最後に別の選手にかわされ、4着となった。

男子 800m 決勝

5 着 川口航汰(3) 1'57"75

最初の200mでうまく2番手についたが、カーブで前に入られてしまい、そこで内側に入ったことからポケットされてしまう。そのままの状態、500mすぎからワントンポ遅れてスパートをかけるも前に出られず、残り200mを6番手で通過。残り100mでも本来のスプリントを発揮できず、6番目、繰り上がりにより5着でのゴールとなった。

7 着 荒田啓輔(3) 1'59"05

積極的なスタートで先頭に立ち、200mを27"中盤で通過。その後先頭で落ち着いて走り、400mを57"で通過。バックストレートで後続に抜かれはじめる。固い動きになりながらもなんとか食らいつこうとするが及ばず、8番手でゴール。1名の失格者によって繰り上がり、7着となった。

女子 800m 予選

1組 5着 星屋美優(3) 2'29"07

先頭集団のペースに食らいつき、少し離れた5番手で、400mを70"で通過。その後先頭集団からは離れるが、残り200mで4位の選手をかわしスパートする。ラスト100mで1人にかわされてしまうも、UBでゴールした。

2組 3着 上條麻奈(2) 2'19"99

先頭集団で落ち着いてレースを進め、ほぼ3人横並びで400mを70"で通過。500mすぎでペースを上げ、先頭に立つ。残り100mで再び仕掛けられ3位となるも無理なスパートはせず、3着でゴールした。

3組 2着 飯田夏生(3) 2'24"93

先頭がハイペースで飛び出す中、それを追いかけるように、やや離れた2番手でレースを進める。400mは69"。2周目に入ったところで早くもスパートをかけ、後続を離しにかかる。ラストで差を詰められるも粘って逃げ切り、PBで決勝進出を決めた。

女子 800m 決勝

3着 上條麻奈(2) 2'16"62 部記録

飛び出した2人にはついていかず、3位集団の先頭でレースを進める。31"で200mを通過してから前を追いかけるように走り、400mを65"で通過。バックストレートで2位に上がるとスパートし、600mの通過は100"ほど。最後やや動きが小さくなり3位となるも、部記録を樹立した。

8着 飯田夏生(3) 2'27"61

前の集団にはつまずかず、福祉大の選手との7位争いとなる。200mは7位で33",400mは70"ほどで通過。そのまま逃げを図るも、最後はかわされてしまい、8位でのゴールとなった。

男子 1500m 予選

1組 5着 関俊樹(4) 4'27"97

スタートから集団の中盤でレースを展

開。1周目72秒とかなりのスローペースでレースは進んでいく。2周目も71秒とかなり遅い中で、800mすぎ一人集団から抜け出しトップを走った。しかし、残り200mで4人の集団に追いつかれ、ラストスパートに対応できず5着でゴールした。

2組 7着 酒井啓一郎(4) 4'21"81

スタートから3,4番手で推移。1周目は69秒と1組目より速いが、2周目は71秒とペースが落ちる中、集団の中で常に3,4番手をキープしながらラスト1周になる。ラスト1周の手前で集団の先頭に出るが、後続を振り切ることができず、ラスト200mでスパートをかけられ、先頭と離されて7着でゴールした。

3組 2着 笠間淳平(3) 4'16"26

スタートして常に2番手をキープ1,2組目同様にレースは進んでいく。多少のペース変化はあったが落ち着いて2番手をキープ。ラスト200mで集団の先頭に立つがラスト100mで1人にかわされ、後ろを気にしながら2位でゴールし、決勝に進んだ。

男子 1500m 決勝

5着 笠間淳平(3) 4'12"50

スタートして50mでスローペースになると見切って1人先頭に飛び出し、後続と50mほどの差を保ちながら一人先頭を走った。1周目62秒とかなりハイペースで突っ込んだが、2周目以降も後続との差がなかなか詰まらず、かなりのリードを保ってラスト1周へ。ラスト1周に入りじりじりと後続との差は詰まるが、先頭でラスト200mに入る。ラスト150mあたりで後続に追いつかれるが、そこからも粘り強いスパートを見せ、5着でゴールした。

女子 1500m 決勝

8着 飯田夏生(3) 5'07"20

12着 須田桜(3) 5'17"87

20着 星屋美優(3) 5'46"74

雨が降り、強風が吹く悪天候の中でのレース。飯田、須田は集団の中盤につけ、星屋は後方からのスタート。集団のペースが落ちるが、須田、飯田は 800m を 2' 40" ほどで通過し、良いペースで刻む。星屋はやや集団から遅れる。飯田はスパートをかけ、8 着でフィニッシュ。須田は 1000m 過ぎからペースを大きく落としてしまい 12 着でフィニッシュ。星屋も単独走となり苦しい走りとなった。

男子 5000m 決勝

- 1 着 酒井洋輔(3) 14'59"44
- 2 着 松浦崇之(2) 15'00"12
- 3 着 笠間淳平(3) 15'00"75

スタートから松浦が先頭で引っ張りハイペースなレースに持ち込む。松浦、酒井、笠間ともに常に先頭をキープ。3 周目に入り、酒井が先頭に立ち落ちてきたペースを再び引き上げる。3 人で 1, 2, 3 位をキープし 3000m を通過。ここで他大の選手がスパートし 2 位以下を突き放す。松浦、酒井、笠間は 4 人の 2 位集団で、1 位との差を徐々に縮めていく。4000m 手前で 1 位に追いつきペースを上げる。先ほどと同じ 4 人の集団で優勝争いを展開。ラスト 500m で笠間がスパートし、酒井がそれに反応しぴったりとついていく。松浦は徐々に差を詰め、ラスト 300m 手前で 2 人に追いつき東北大の 3 人でラスト 200m へ。酒井が先にスパートし一気に 2 人を突き放す。松浦、笠間もスパートし追いつこうとしたが酒井が逃げ切り優勝。松浦が 2 位、笠間が 3 位と続いた。

女子 5000m 決勝

- 11 着 宮間志帆(M2) 18'49"74
- 14 着 須田桜(3) 19'11"81
- 19 着 門田佳奈(4) 20'42"93

序盤、宮間が先頭集団に、須田は第 2 集団、門田は第 3 集団でレースをすすめていく。1000m あたりで選手たちは散り散り

になってしまうも東北大勢は各々自分のレースを作っていく。3000m あたりで、須田が何人か抜き、前の宮間との差を詰める。門田もつらそうではあるが、足取りはしっかりしている。残り 1000m をきったあたりで、宮間がペースをあげそのままゴール。その後須田、門田と続く。

男子 10000m 決勝

- 1 着 松浦崇之(2) 32'04"39
- 4 着 高橋佳希(M2) 32'22"04
- 9 着 本田雄生(M1) 32'53"67

スタートから 4000m まで 3 人とも先頭集団でレースを展開。4000m 過ぎで高橋が先頭に立ち徐々にペースを上げていく。6000m 手前で本田が先頭集団から脱落し 4 人の 7 位集団を形成する。先頭は高橋がペースを上げるが、後続も食らいつき、先頭は大集団のまま残り 2000m を迎える。また本田は 3 人で 7 位集団を形成し 8000m を通過。ラスト 2000m で松浦が集団から飛び出し一気に後続を突き放す。高橋はそのスパートに対応できず 3 人で 2 位集団を形成。9000m 過ぎ、松浦のペースは落ちるが依然として独走を続けそのまま 1 位でゴールした。高橋はラスト 1 周まで 2 位集団で粘るがスパートがきかず、4 位でゴール。本田はラスト 1000m でスパートをかけられ何とか食らいつこうとするが最後まで追いつくことができず、9 位でゴールした。

男子 110mH 予選

- 1 組 3 着 工藤翼(4) 15"22(-0.9)

荒天の中でのレースであったがアプローチから 1 台目まで勢いよく突っ込んでいった。中間も低いハードリングで間を刻んでいったものの後半では多少走りが乱れたか。2 着以下が混戦となるなかでシーズンベストをマークし無事に着順取りで決勝進出を果たした。

- 2 組 4 着 勝井友樹(3) 16"14(-3.0)

スタートは良くスムーズに加速するも 1 台目は若干浮く。序盤はピッチを比較的良好に刻めていたが中盤以降のインターバルはスピードに欠ける。全体的にハードルを高く飛びすぎており、1 台目もハードルに触れることなく 4 着でフィニッシュ。

2 組 5 着 工藤知央(M2) 16"72(-3.0)

学部時代の面影はなく、スタートから出遅れる。ハードリングが安定しないため得意の中盤も伸びず 5 位でゴール。

男子 110mH 決勝

7 着 工藤翼(4) 15"22 (+0.3)

予選に続き豪雨と強風の続くコンディションであったが、予選とは一変前半のアプローチから体が浮くハードリングをしてしまう。他の選手にも序盤から遅れをとり中盤後半でなんとか食らいついていくものの 7 着でゴール。予選と同じタイムであった。

女子 100mH 予選

1 組 5 着 泉屋咲月(1) 18"27(+0.9)

1 台目の入りはまずまず。前半は 3 歩で刻むが、スピードに乗れない。6 台目のインターバルが伸び、8 台目からは 4 歩に。そこから大きく失速し、差が広がる。そのまま 5 着でゴール。

男子 400mH 予選

1 組 3 着 羽根田佑真(2) 56"36

一番外 8 レーンからのスタート。前半からうまく加速し、5 台目までスピードにのったまま通過。5 台目抜けて少しつらくなったがなんとかスピードを落とさないよう維持して 8 台目まで 15 歩で問題なくクリア。9 台目の課題であった「疲労のなかの逆足」も 8 台目抜けてからしっかり切り替えることができたため、大きなミスなくクリア。ここで少し後ろに詰められるも、10 台目は利き脚で勢いよく越えることができたため、そのままの勢いで後ろとの差を縮められることはなく、3 位でフィニッシュ。

2 組 5 着 鈴木景(2) 58"98

スタートの反応は良く、アプローチ 22 歩で 1 台目を快調に通過。5 台目までインターバル 15 歩を維持し、5 台目(185m 地点)タッチダウンタイムが 23 秒 64、200m の通過は 25 秒 5 であった。前半までは、トップ選手と並びレースを引っ張っていた。その後、6、7 台目を 17 歩で通過するも後半は減速し、8、9、10 台目は 19 歩となり他選手 3 人に抜かれ 58 秒 98 の 5 着となり予選敗退。

レースの各区間のラップタイムは次であった。

[6"24-4"24-4"33-4"39-4"44-4"90-5"07-5"39-5"92-6"46-7"53

3 組 6 着 沼田亮介(3) 59"46

1 台目は気持ちよく飛び越えることができたが、この時点で他の選手より少し置いて行かれてしまっていた。2~5 台目はできるだけリラックスして走ることを意識し、6 台目以降から歩数を増やして挽回を試みたが、前の選手と少し詰めたものの思うようにスピードを上げることができず、6 人中 6 着でゴールした。

女子 400mH 予選

1 組 5 着 柄澤菜々美(1) 1'18"88

前半こそ順足だったが後半は逆足、受験明けの身体はそう簡単には戻らず大変苦しい走りとなった。前半の走りの感触は悪くなかったが、4 台目と 7 台目での体力・筋力不足による減速の感覚はタイムにも大きく現れた。アプローチの加速と後半の粘り・フォーム維持を今後の課題としていく。

男子 3000mSC 決勝

1 着 立野佑太(2) 9'34"53

2 着 南雲信之介(6) 9'37"81

4 着 堀拓磨(2) 9'54"99

スタートから 3 人とも先頭にぴったりとついていく。1000m を通過後立野が一気に仕掛け後続を突き放す。南雲、堀ともに立野のスパートに対応しようとするが、堀

はついていけず2人で3位争いを展開。南雲は立野に追いつこうとするがなかなか差が縮まらない。立野がこのまま独走すると思われたが、ラスト1周の手前、水豪で立野のペースが急激に落ち、南雲が立野に並んでラスト一周を迎える。堀はラスト2周で3位争いから抜け出し単独3位へ、4位を突き放しにかかる。立野と南雲はラスト1周、立野がスパートし急激にペースが上がり、南雲は粘るがついていけず立野が優勝、南雲は2位でゴールした。堀は単独3位でラスト1周を迎えるが4位の選手のスパートでラスト100mでかわされ4位でゴールした。

女子 3000mSC 決勝

DNS 宮間志帆(M1)

男子 10000mW 決勝

7着 森 渉(4) 48'32"21

8着 及川一真(3) 48'39"35

11着 寺島智春(1) 49'46"45

天候は雨、気温は13.5℃、風速4.1m/sと風が強く歩きづらそうなコンディションのなか、男子10000mWがスタートした。400mを通過して、及川を含む9人で先頭集団が形成された。その後ろ、少し空いて森を含む3人の集団、さらに空いて、寺島が1人で歩を進めている。1000mの通過は森4'49 及川4'50 寺島5'00で、森が先頭集団に加わり、10人の集団となった。寺島は依然として1人だが、前の2人に追いついてきた。2000mを通過して、9人の先頭集団7,8番目を森と及川が歩いている。寺島は前に追いつき、3人で11位争いをしている。4000mまでその状況が続いたが、4000mを通過するころ、及川と森は先頭集団から離れてしまった。先頭集団は6人、10mほど空けて7位に及川、さらに10mほど空けて8位に森がいる。寺島は先頭と150m離れて11位争いをしている。

5000mの通過は森・及川が24'05、寺島24'50ほどであった。森の5000m通過タイムは、5000mWの自己ベストとほぼ変わらず、好記録が期待できそうだ。6000mを通過するころ、スタート時より風が強くなってきた感じがする。先頭は1人飛び出し、2位に10m差をつけ、ペースアップのレース展開である。レースも後半戦に入ったが、3人とも歩型はしっかりしており、腕も振れている。8000mを通過して、寺島は周回遅れとなってしまった。森と及川は7,8位を2人で歩いており、後ろとの差が開いてきており、このままいけそうだ。9000mを通過して、森・及川と前との差は50m、徐々に近づいてきている。残り1000m、ペースアップすれば追いつけそうだ。寺島はやや辛そうな歩きになってきた。

ラスト1周の鐘が鳴り、森が及川の前に出た。6位はもう目の前だが、6位の選手も森に気づきペースを上げている。そのまま6位と3秒差の7位で森が、8位で及川がゴールした。森は自己ベストである。寺島は11位だったが、初出場にして50分を切った。

女子 10000mW 決勝

3着 白井花(3) 54'09"34 部記録!

天候は曇り、心配された雨も止み風も無く高記録が期待できるコンディションであった。スタート直後、福祉大の一年生が飛び出す。先頭は400mを1分53秒で通過するというハイペースでレースが始まった。白井は先頭に着いてはいかないものの400mを2分3秒、1000mを5分13秒という自己ベストよりも速いペースで通過した。1000m付近までは学院大の選手と歩いていたが、その後はその選手が離れ白井は単独3位となる。白井は1キロを5分20秒~5分25秒という安定したペースで刻み、先頭とは80m前後の差を維持したまま歩いていた。5000mの通過は26分47秒で

自己ベストとほとんど変わらないタイムであった。その後 6000m 過ぎに先頭を歩いていた 2 選手のうち 1 人が遅れ始めると、白井との差がみるみる縮まっていく。白井も必死で前を追い、一時 2 秒差まで詰めたが 2 位の選手も粘り、そのままの順位でのゴールとなった。白井の記録は 54 分 9 秒で自己ベスト、並びに部記録を約 2 分も更新する高記録であった。そしてなにより注意、警告もゼロという完璧な歩きでの記録だけに今後も部記録の大幅更新を期待できるだろう。

男子 4×100mR 予選

1 組 3 着 42"85

白鳥(3)-大衡(4)-山田将(2)-藤井佳(4)

1 走の白鳥、勢いよく飛び出し外側を走るチームとの差を縮めるが、気温の影響か動きが硬くバトンパスは手を大きく伸ばし何とか渡す形となった。2 走は大衡、バトンパスで少し手間取ったように見えたが、後半ぐんぐん加速しスムーズにバトンを渡した。3 走の山田将、大きな走りで内側から差を詰めていく。バトンパスは少し詰まり 4 番手あたりでバトンを渡す。4 走は藤井佳、バトンを受け取った時点で 3 番目との差が大きくあり、少し力みが見られたが、だんだんと差を詰めゴール直前でかわし 3 着でゴール。

男子 4×100mR 決勝

DQ 白鳥(3)-大衡(4)-山田将(2)-藤井佳(4)

不正スタートにより一発失格。上位入賞が期待できただけに悔やまれる結果となった。

女子 4×100mR 決勝

6 着 50"59

中村(3)-佐貫(2)-吉村(4)-佐々木(3)

1 走は中村、スタート直後に上体が起き上がってしまったが、細かいストライドでスピードに乗っていった。バトンパスはかなり詰まり大きなロスとなってしまう。2 走

の佐貫、大きな走りでトップスピードに乗ってからは前との差を縮めていき減速することなくバトンパスをする。3 走は吉村、スムーズに加速していくが後半は動きが小さくなってしまい伸びていかず、バトンパスは 4 走の佐々木が減速して受け取る形となってしまう。4 走の佐々木、大きな走りで前を追っていくがなかなか差は縮まらず、6 番目でゴール。

男子 4×400mR 予選

2 組 4 着 3'21"13

白鳥(3)-水戸部(4)-羽根田(2)-岩波(3)

1 走は白鳥、前半はリラックスした走りでバックストレートも大きく走り抜けていく。なかなか前のチームの背中をとらえられず最後の直線は苦しい走りとなった。バトンパスがスムーズに渡らず、大きなロスとなってしまう。2 走は水戸部、前半から飛ばし前のチームとの差を縮めていく。バックストレートで 1 チームをかわした勢いそのままにホームストレートに入ってから大きな走りで一気に先頭に立ったところでバトンパス。3 走は羽根田、後ろの 2 チームに徐々に差を詰められ、200m 付近で先行を許す。しかし後半は持ち前の大きなストライドを生かした粘りの走りを見せ 1 チームをかわし、2 番手でバトンパス。4 走は岩波、混戦の中スピードに乗ってきた 3 チームに差を縮められ、バックストレートで一気に 3 チームに抜かされたところでさらにはじかれてしまう。苦しい展開となってしまったが、残り 100m 地点で加速し 1 チームをかわして前の 2 チームも追うが差を詰めきれず 4 着でゴール。

男子 4×400mR 決勝

7 着 3'20"25

羽根田(2)-水戸部(4)-川口(3)-岩波(3)

1 走は羽根田、前半から大きなストライドで攻めの走りを見せたが前との差は縮まらず、内側のチームにも先行を許してしま

う。ホームストレートに入ってからからは苦しい走りとなり、8番手でバトンパス。2走は水戸部、最後尾からのスタートとなったがどんどん前との差を縮めていき、200m付近で前のチームの背中をとらえる。コーナーに入り外側から追い抜こうとするがなかなか前に出られず、苦しそうな様子であった。何とか1チームをかわし、最後の直線に入ってからピッチを上げていくが、前との差は縮まらず7番手でバトンパス。3走は川口、前のチームにぴったりと付きバックストレートは大きくリラックスした走りであった。最後の直線に入ってから力強い走りで行き、前との差を縮めていき、ほぼ同時の6番目でバトンパス。4走は岩波、バトンを受け取ってからの加速で先行を許し、そのまま置いて行かれる形となってしまう。必死に前を追うがなかなか差は縮まらず、そのまま7着でゴール。

女子4×400mR 決勝

5着 4'03"37 部記録!

吉村(4)-佐貫(2)-飯田(3)-上條(2)

1走は吉村。スタートが出遅れ100m地点で内側の福島大に詰められたが、バックストレートから加速していき250mぐらいまでは並走した。ラスト100mで置いていかれ5位付近でバトンパス。2走は佐貫。大きな走りで加速していき、前との差を縮めた。300mまでに2人を抜かしラストも前の2チームとの差を詰め3位でバトンパス。3走は飯田。勢いのあるスタートではあったが、後続の仙台大、岩手大に抜かれた。後半も走りは崩れず粘りきり、5位でバトンパス。4走は上條。スタートからラストまでテンポの良い走りで後ろとの差をつけ5位でフィニッシュ。部記録を2秒ほど更新した。

男子走高跳 決勝

3位 山下一也(3) 1m95

190cmから試技を開始。190cm、195cmは助走のリズムも良く重心もうまく下がり、余裕を持ってクリア。200cmは1回目、2回目ともに助走の動きが硬くなり、重心が内径で下がらなかったため、踏切で力をうまく受けられず失敗。踏切動作もキレがなく硬かったため、上半身が回らずピークが合っていなかった。3回目は助走の動きが改善され、うまく重心を下げつつ内径を走れたが、踏切でスピードに耐えられず少し踏切が潰れた。空中動作は上半身がしっかり回っていたが、踏切が少し潰れた分高さが足りず、バーに触れ失敗した。

今後細かい点の調整をし、安定した跳躍ができるよう改善していかなければならない。

9位 渡辺智輝(2) 1m70

165cmからスタート。1回目でクリアしたが足がバーに触れたギリギリの跳躍であった。170cmは踏切位置を適正な位置にもっていくことができ、余裕を持ってクリア。175cmは170cmでの跳躍を再現できれば跳べる調子ではあったが、動きが再現できず、失敗。1,2回目は体が上がったものの、踏切位置が近く、頂点が奥になってしまった。3回目は踏切位置が近い上に突っ込んだ跳躍になった。踏切位置が近いことが多いので、練習で高い高さに合った踏切の練習が必要と感じた。

10位 嶺岸雄太 1m70

170の1本目は助走が合わず失敗した。2本目は踏み切ることができなかったが1本目よりわずかに後傾していたためにクリア。175では1本目は170と同様に後傾ができておらず失敗。2本目は最後の3歩のリズムを上げようとしたが、逆にそのことにより内傾中に浮いてしまい失敗。3本目は1本目と2本目のミスを生かすことができず、完全にばらけた跳躍となり一番悪い形となった。一番の直接的な原因は後傾不足で踏み切ることができなかったことにあ

るが、それ以上に本数を重ねるごとに跳躍を修正できないだけでなく、むしろ悪化させてしまう点が重要な課題である。一番良い跳躍が競技前の練習跳躍であるのがその例である。助走を安定させつつ、微調整でより跳躍を改善させられるようになることが必要と思われる。

女子走高跳 決勝

1位 中村真璃子(3) 1m55

145cm からスタートし、145 は1回でクリアするが、少しバーに触れた。150cm は体が浮き、1回でクリア。155cm は内傾がうまくかけられず、3回ともミス。

ジャンプオフになり、内傾だけに意識をおいて助走し、155cm をクリアし、1位に決定した。雨風が強く、体をうまく動かさなかったのが反省点である。3回の試技の中で155cm を跳ぶべきだったので、今後はより一層練習に励みたい。

4位 大和志乃(宮城大2) 1m40

1m40 の1本目ではスピードがなかったのと内傾が甘かったため失敗した。2本目ではその反省を生かし、ギリギリだが成功することができた。1m45 は、3本とも全く歯が立たないという状態だった。スピードがあまりなく、内傾と最後の6歩も甘かった。今回の反省を生かし、もう一度助走と空中動作を見直していく必要がある。また、高さが上がっても臆さない跳躍ができるよう練習していくべきだと感じた。

男子棒高跳 決勝

1位 高橋昇之(3) NM

4m40 からスタート。

助走からの踏み切り動作に大きな課題が残った。今回使ったポールでは4m60 や70 が狙えるポールだったが幅を出すことができず、3本失敗。まず一本成功。記録を残す。点を確保する。対抗戦で大前提となる意識が足りない印象を受けた。

男子走幅跳 決勝

11位 藤井大輝(3) 6m68(+4.0)

1本目 F

逆の足からスタートしてしまったためまるで足が合わなかった。こんなミスは経験が無いので初めての対抗戦ということで緊張していたと思われる。

2本目 6.68(+4.0)

課題であった踏切前の減速が抑えられ、しっかり腰を落として跳躍できたため、なかなか良い跳躍であった。

3本目 F

3cm 程ファール。跳躍自体は2本目同様良かった。

改善点を多く克服した跳躍ができた。まだ残る改善点を直していくべし。

12位 藤井佳祐(4) 6m66(+5.6)

四継予選の直後ということもあり疲れが見られいつもより全体的に助走が走れてないように見られた。1本目は普段の助走の走りが出来てなく足が合わずに5cm のファール2本目は少し助走速度を落とし確実に記録を残しにいったが途中で足を吊ってしまった。そのまま跳躍を行ったが踏み切ることができず6m66 であった。3本目は助走が2本目までより遥かによくしっかり走っていたが最後潰れてしまい跳ぶことができなかった。

17位 大塚祐貴(4) 6m52(+3.5)

1、3本目はどちらも15センチ程ファール。2本目は助走終盤に吹いた、横方向からの突風でのおかげで少し減速し、ギリギリファールとならずに記録が残った。ファールした時の跳躍は、どちらも悪いものではなかっただけに、いかなるコンディションでも、足を合わせる技術がなかったことが悔やまれる試合だった。

女子走幅跳 決勝

17位 門脇郁(2) 4m36(-0.5)

1本目 4m36。助走のリズムは悪くなかったが、踏切の力不足で記録が伸びなかった。

2本目 4m33。1本目と同様に踏切手前で重心を下げられず、高さにつなげられなかった。3本目 4m32。重心を下げることを意識しすぎてスピードを殺してしまった。

今回は踏切手前の重心移動も問題であったが、以前の押すような走りが出来ていないことが気になった。技術的な面だけでなく、自身の走りそのものを見つめ直す必要がある。

16位 渡邊朝美(M1) 4m38(+0.3)

1本目は助走前半から押してそれなりのスピードに乗れたものの、2cm程のファール。2本目は完全に足を合わせに行ってしまうて4m38。3本目は2本目よりはまとまりがあったもののファールに終わった。全助走での練習が少なすぎたことが反省点である。

男子三段跳 決勝

12位 藤井佳祐(4) 13m46(-0.3)

三段も幅と同様 100m 準決勝の直後であった。今回は時間が無かったためほとんど助走練習が出来なかった。3本とも去年のホップより跳べず記録が伸びなかった印象である。学連春季でステップのコツを掴んだが練習不足が感じられ、跳ぶことが出来なかった。8ラインは自分のベストより低い記録であっただけに8に残れなかったのは悔やまれる。

19位 松岡恭平(2) 12m66 (-0.5)

1本目、12m66

ステップでつぶれることなくしっかり跳べていた。

2本目 F

助走スピードが少し上がってしまい、体が突っ込みすぎた。ジャンプが跳べずファール。

3本目 F

ステップまでは良かったが、ジャンプに入る時ブレーキがかかってしまい上方向に跳んだ。砂場に届かずファールとなった。

ステップで跳躍するという学連春季の課題を改善できた跳躍だった。

NM 佐藤文哉(M1)

三回の試技全てで、砂場に到達できず、3Fによる記録なしという結果となった。怪我による調整の遅れが原因と考えられる。

女子三段跳 決勝

10位 渡邊朝美(M1) 10m36(+0.4)

全体的に小さくまとまっていた。跳躍練習がつめておらずスピードをどこまであげられるかわかっていない。夏に向けて走り込みと跳び込みをしっかりと行っていく必要がある。

男子砲丸投 決勝

7位 楠哲也(3) 11m18

全く練習せずに臨んだが、案の定記録は散々なものであり、1投目は人生初の10mを切る投擲であった。2投目以降も調整はしたが、砲丸の突き出し角度と実際の射出角度に大きなずれがでる投擲であった。決勝には進んだものの、学校の授業の為4投目以降はパスした。

9位 佐藤雄也(M1) 9m56

今シーズンに入るにあたって取り組んでいるものの、未だに下半身を使いこなせていない投擲が全般であった。そして、パワーポジションを変える練習に集中していたためなのか、グライドが本来の3拍子ではなく2拍子の形に悪化してしまっていたことで最大限の加速を得られずに記録が伸び悩んだ。1投目は投擲動作に勢いが感じられなかったので、2投目は形よりも速さを意識して投げたが、最後に両足で踏み留まらずに前へ出てしまいファール。2投目のファールでリズムをやや崩してしまったものもあるが、3投目では突き出しの瞬間に雨で少し滑り、力を入れきれずにショート。2投目のようなファールは稀にあるので、ファールを防ぐための技術も身に付ける必要がある。

男子円盤投 決勝

1位 楠哲也(3) 42m06

七大戦前にひじを痛めてから、初めてのフルターンによる投げであった。1投目はうまくはまり42m06cmであり、この日のベストであり、セカンドベストであった。2投目は円盤に体重が乗らずショート。その後の投擲は全て右のネットに引っかかりファールであった。

14位 野尻英史(3) 21m19

今回の試合は円盤投のデビュー戦であった。一般規格の円盤を投げ始めておよそ一ヶ月弱であり、この短い準備期間でどれだけ投げられるか、またこれからの北大戦・七大戦に向けて何が足りないのかの試金石となる試合であった。

しかし当日の天候は雨で、サークル・円盤が共に滑りやすくなっており、絶対的な経験が少ない者には厳しいコンディションであった。連取投擲及び1投目はスタンディングで投擲したが、円盤に力が加わらず、またリリースポイントがずれた。3投目はリリースポイントを修正はできたものの下半身の力を円盤に伝えることができず、記録は伸びなかった。

これからは実際の試合で経験を積むとともに、フォームを安定させることが課題である。

男子ハンマー投 決勝

8位 野尻英史(3) 34m19

一段と暴風雨が強まった悪天候の中での試合となった。

1投目は2ターンで投擲した。悪い足場の中での「置き」の投擲であった。2投目は足が滑りフィニッシュの体勢が崩れ、ファールとなった。3投目は3ターン目まで体勢をкаろうじて維持出来てはいたが、わずかに左に逸れファールとなった。4から6投目はチップやターン中の不安定さからファ

ールとなり、結果1投目の置きの投擲を超える記録を出すことができなかった。

全体的に調整不足と経験不足が重なり、不本意な結果に終わった。

男子やり投 決勝

6位 楠哲也(3) 55m67

練習投擲では、60mに迫る投げもあったが、試合では1投目は角度が上がり52m35cm。2投目は助走が合わず49m68cm。3投目は手が滑り自らファール。本人曰く3投目以降は右足のブロックができるようになったが、それに対して上半身の調整が利かなくなり、60°ぐらいの角度で投げていた。この日のベストは4投目の55m67cmであった。

10位 新出悠介(2) 45m46

4月初めに負傷した肘が治りきらない中での出場であった。

1投目は43m68。やりの角度と力を加える向きが一致しなかった。2投目は41m81。1投目と同様。また、リリースのタイミングもずれた。3投目は45m46。1投目と同様に角度と向きは一致しなかった。ただ、3投の中で1番腕を振りきれていた。

11位 宮本貴広(1) 42m96

今回は大学デビュー戦だった。準備期間も短かったため、三投とも短助走で投げ、その中でどれだけ飛ばせるか試せる意味合いが強い試技内容だった。

試合の中で見つかった反省点は、第一に腕だけで投げてしまい、下半身の力が伝わっていないこと伝わっていないこと、第二にブロック動作が不十分のため体か前に突っ込みすぎてること、第三にリリースした後の腕が体に巻き付いていないため、やりに力を加える時間が短くなっているであろうとが挙げられた。

北大戦でも正選手として競技を行うため、これらの課題を解消しさらなる飛躍を遂げていることを期待したい。

◎自己ベスト更新者一覧(3/1~5/21)

- 男子 100m
白鳥海知(3) 11"22(+1.8)(宮城県春季)
工藤翼(4) 11"34(+0.7)(仙台大競技会)
古川楓(3) 11"50(+0.9)(仙台大競技会)
- 男子 200m
白鳥海知(3) 22"60(+0.4)(東北インカレ)
- 男子 5000m
松浦崇之(2) 15'00"21(東北インカレ)
須永亘(3) 16'05"72(学連春季)
三浦大樹(2) 16'23"97
(長距離短距離フィールド競技会)
- 女子 5000m
須田桜(3) 19'11"81(東北インカレ)
- 男子 10000m
松浦崇之(2) 31'21"04(学連春季)
藤原啓(4) 33'41"46(日体大記録会)
三浦大樹(2) 34'50"31(学連春季)
- 男子 400mH
羽根田佑真(2) 56"36(東北インカレ)
- 男子 3000mSC
南雲信之介(6) 9'37"81(東北インカレ)
藤原啓(4) 10'38"42(学連春季)
- 男子 5000mW
森渉(4) 24'04"34(宮城県春季)
- 女子 5000mW
白井花(3) 26'40"14(宮城県春季)
- 男子 10000mW
森渉(4) 48'32"21(東北インカレ)
- 女子 10000mW
白井花(3) 54'09"34(東北インカレ)
- 女子 4×400mR
吉村(4)-佐貫(2)-飯田(3)-上條(2) 4'03"37
(東北インカレ)
- 男子走幅跳
高橋昇之(3) 7m16(+0.4)(仙台大競技会)
工藤翼(4) 6m82(+1.3)(仙台大競技会)
- ハーフマラソン
梶山あずさ(6) 88'36"(仙台ハーフ)

○今後の予定

- 6月3日 北海道大学対東北大学陸上競技定期戦 (円山陸上競技場)
- 7月1~3日 第39回北日本学生陸上競技対校選手権大会 (福島・とうほうみんなのスタジアム)
- 7月29~30日 全国七大学対校陸上競技大会 (愛知・1日目:知多運動公園陸上競技場、2日目:パロマ瑞穂スタジアム)

○編集後記

今シーズン最初の対校戦となる東北インカレが終わりました。全カレ出場者6人、部記録の更新、多数の入賞者、と大いに健闘しました。東北インカレの正選手に選ばれなかった選手も各種記録会で好記録を出し、チームは勢いづいてきました。

今後は北大戦、七大战に向けて部員一同、一層努力して参ります。応援よろしくお願いたします。

文責 副務 阿部春花

東北大学陸上競技部三秀会
〒980-0815 仙台市青葉区花壇 2-1
東北大学評定河原グラウンド内
hukumu_tohoku_ob2sin@yahoo.co.jp